

# 豊永郷 定福寺周辺地域の文化と 文化財保存活動 並びに 活用活動



## 1. 定福寺の活動の目的

「物の興廢は必ず人に由る。人の昇沈は定めて道に存り、大海は衆流に資って深きことを致す、蘇迷は積塵を待つて高きことをなす」（物の興廢は必ず人による。人の昇沈は必ずその道の学び方にある。大海は多くの流れが注がれてこそ深くなり、須弥山は塵が積り積もって高いのである）

『性靈集』「綜芸種智院式」弘法大師

仏教とは何かという問いに対して、自分と社会の関係を、違った視点から考えるための「思考と実践の体系」とおっしゃられる先生がいます。仏教は「苦」を切り口として「心」について考えてきました。時代や地域によって、また寺院を建立した人々や目的、人々の願いによって寺院の様子は異なります。また時代の経過と共に社会が変化し、人々の価値観が変化すると、寺院の役割も変化してきました。

定福寺では、寺院は「祈る場・学ぶ場・集う場」と考えています。定福寺の活動は「心」を柱とし、人の言動の表現である「文化」に注目しています。「学び・知る・考える・動く」ということをテーマとし、「気づき」や「つながり」を大切に活動を行っています。研修や観光で定福寺を訪れた人々に何かを感じていただき、各人が様々に考え、想像し、物を語る場を提供できればと考えています。定福寺を護ってくださった地域文化や地域文化財の保存と活用も重要な役割だと考え活動しています。

## 2. ビジョン

定福寺は開創 1300 年を迎えた山岳寺院です。多くの平安仏が安置され、古くからの祈りが現代にまで残る貴重な「祈りの場」であります。境内にはかつて寺子屋のような「学ぶ場」がありました。経典や書物を収蔵していた図書館のような経蔵もありました。隣には剣道場もありました。境内では盆踊りや祭りが行われ、豊永郷の人々の「集まる場」にもなっていました。

定福寺は「祈る場」であり、「学ぶ場」であり、「集う場」であることが、先師の記録や境内伽藍からうかがえます。豊永郷地域の住民や定福寺を訪れる人々のご縁のお陰で存続してきました。現在の定福寺には、定福寺宝物殿、豊永郷民俗資料館、境内には土佐豊永万葉植物園があります。また定福寺第三駐車場には、人工芝が敷かれ多目的の広場として体を動かせる場にもなっています。

1967 年頃から 1998 年まで境内にユースホステルがありました。お寺の宿泊施設を利用することで、若者が伝統文化に接する機会を設け、僧侶と話す機会や瞑想の機会を提供してきました。宿泊者らが提案企画し、豊永郷の自然環境や史跡をトレッキングやサイクリングする「五大修行」というプログラムを提供していました。定福寺・豊永郷民俗資料館・土佐豊永万葉植物園・五大修行を活用し、多くの人々に場の提供をしようと考えています。



定福寺の景観と四季

### 3. 定福寺の役割

「祈る場・学ぶ場・集う場」である定福寺の役割は、お寺と地域文化の保存と継承、活用だと考えています。定福寺の役割の一つの活用は、定福寺がきっかけとなり発足した豊永郷民俗資料館や土佐豊永万葉植物園を窓口とし活用しています。豊永郷の自然や人々の生活を土台として、多くの人々に新たな気づきや思考のきっかけの場になればありがたいです。この活動が豊永郷が長年積み重ねてきた環境を次世代に伝える活動になることを望んでいます。

### 4. これまでの取り組み

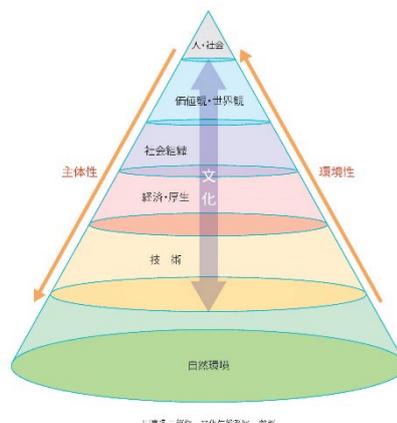
#### 4. 1. 豊永郷民俗資料保存活動

定福寺の釣井義光師が昭和30年代、地域で鉄くずになる前の茶釜を買い求めたのが最初の収集です。以降現長老釣井龍宏師とともに、ご法事に行った際などに民具の収集を始めました。収集された民具を、境内で当時運営されていたユースホテルに展示いたしました。展示を見た宿泊者の学生たちの協力のもと、12,000点以上収集できました。高知県で最大量の収集です。学生の中に民俗学者の宮本常一を師事する学生がおり、その縁もあり2,595点が重要有形民俗文化財に指定されました。この時、大豊町が民具の所有者となりました。1973年に土地は釣井家が貸与し、大豊町立民俗資料館が開館いたしました。指定物を保存する場としては不十分であり、外に野ざらしになった指定民具もありました。ベニヤ板の壁、透明な波トタンの屋根の建造物は老朽化が進み、民具は雨漏りや直射日光にさらされていました。1998年より再建に向けての大豊町との話し合いが始まりました。再建は不可能ということでした。文化庁とも話し合いが行われましたが、町では助成の申請はできないということでした。このままでは民具が朽ちていくので、所有者は大豊町ですが、定福寺で再建を決定しました。豊永郷に関する多様な分野の学芸員や館長、教授にお越し頂き、豊永郷文化講座を3年間開講し、豊永郷の古道を歩きながら歴史や生活を紹介する「古道道を歩く」、機関誌の「豊永郷文化通信」などの発刊で理解を得ようとしてきました。活動の間に任意団体からNPO法人豊永郷民俗資料保存会を立ち上げ、活動を続けました。木材の助成金などを頂き、2016年に開館いたしました。

テーマは「人と自然 道具と技術」です。民具は生活用具です。昭和30年代までの豊永郷の人々の生活を感じて頂き、また道具と技術がどのように変化してきたのか、豊永郷の人々は自然とどのように関わって来たのかなど、豊永郷の人々の生活と各自の生活環境を比較しながら文化について考える場となっています。展示設計は学芸員が行い、展示は学芸員と地域の方々で行いました。手作りの民俗資料館が完成いたしました。



豊永郷民俗資料館



豊永郷 文化生態系論 資料

豊永郷民俗資料館展示テーマの土台「文化生態系論」

#### 4. 2. 地域文化財保存・保護活動

定福寺が関係する地域には、36の堂宇とお宮があります。江戸末期までに作られた建造物であり、古いものは室町時代の仏像が安置されています。各堂には本尊と脇仏、また大小の仏像、神像が安置されています。殆どのお堂に3体以上の仏像が安置されています。

限界集落という名称は高知大学の教授が、仁淀川町の調査をしている際に使用した言葉です。集落ではなく、集落の集合体である自治体が限界とされ、日本で最初に限界自治体となった町が、大豊町です。大豊町の2/3程の面積で大豊町の東北部にある地域が、江戸末期まで豊永郷と呼ばれていた集落です。現在の豊永駅周辺が中心地であったようです。この地域も同様に人口減少が進み、お堂が管理できなくなってきた地域があります。これらの地域のお堂の仏像を定福寺で保存し、各地区の仏さまとして、定福寺で参拜できるよう準備いたしております。

また、古文書が残っている家もあります。そのお宅から史料をお借りし、デジタル撮影、目録作り、冊子として記録を保存する取り組みを高知県の助成を受けおこなっています。定福寺内の古文書の調査は2024年より始まります。地域の文化や史料の保存調査活動を続け、これらを活用しようとしています。



地域文化財保存活動と古文書調査活動

#### 4. 3. 自然環境活動

定福寺の境内に土佐豊永万葉植物園があります。門田秀峰氏と釣井義光師により1975年4月20日に全国で6番目の万葉植物園として開園されました。1975年の開園に先立ち、「土佐豊永万葉植物研究会」が発足しました。1979年に新たに「土佐豊永万葉植物保存会」と名称を変更し、再出発をいたしました。門田氏によれば、当時豊永万葉植物園は自生の万葉植物が3分の2を占め、自然を生かした植物園となっていると記されています。近年、植物は自然環境や気候に影響を受け、植生も変化しています。土佐豊永万葉植物園発足当時の植物は移動したものや、また見れなくなったものがあります。境内には万葉歌碑が建立され、その周辺には歌碑に歌われる植物が生息していますが、それも変化いたします。このような事例から園内を散策しながら、自然環境について考える活動を2024年からおこなう予定です。



土佐豊永万葉植物園の道

#### 4. 4. 人材育成活動

「人材育成」や「社員研修」について、数年前から新聞などに記事が、散見されるようになりました。企業の在り方や、人を育てることの重要性、また社会課題に向き合うことについての記事が掲載されることもあります。

「人類の豊かさとは何か。誰もが納得する指標を作れるかどうかは分からない。仮に生み出せたとしても、GDP に完全に置き換わることはないだろう。一方で GDP だけを信じるべきでもない。豊かさの捉え方が変わる中、信頼できる指標の再構築が求められている」  
——どうしたらいいでしょう。

「もっと心の奥に目を向けるのはどうか。多くの人が精神的な落ち込みを抱えている。仕事は人々の生活を支え、アイデンティティを定義する重要な要素となる。重要なのは仕事をする中で『意義あることをしている』と実感できることだ。

『日経新聞』2022年1月14日 成長の未来図 識者に聞く(4)

「意義ある仕事の供給を」マサチューセッツ工科大教授 アビジット・バナジー氏

BRTでは、1970年代からコーポレートガバナンスに関する声明を公表してきており、1997年以降は企業の目的を株主利益の実現ととらえていた。しかし、その後、米国の多くの経営者は地域への貢献や環境問題への対処など、広く社会課題の解決も企業の目的ととらえるようになってきており、今回の声明はそのような変化を反映させたものである。

『週刊 経団連タイムス 2019年12月5日 No.3434』

定福寺が提供する研修のテーマは、『学び・知る・考える・動く』です。

人材育成などの研修では、定福寺周辺地域や施設から情報を得て、課題を見つけ、解決方法を考えて頂く「地域課題と解決方法」についてなどのテーマもあります。豊永郷で「学び・知る・考える・動く」ことで日常と違った環境、文化圏に触れ考えることを目的としたプログラムを用意しています。



人材育成プログラム

プログラムは5つあり、どのようにも組み合わせができます。1つ目は豊永郷民俗資料館のプログラム、2つ目は定福寺のプログラム、3つ目はサッカーコーチングプログラム、4つ目は定福寺ユースホテルで行われていた修行プログラムです。5つ目は土佐豊永万葉植物園とその周辺地域を散策するプログラムです。

豊永郷民俗資料館、定福寺宝物殿、土佐豊永万葉植物園は、高知県の博物館・美術館・動植物園・資料館などの団体であるミュージアムネットワークの会員です。各館との連携も行い、様々な分野の学芸員をコーディネートすることも可能です。

また豊永郷民俗資料館は、地域ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）活動推進拠点(地域ESD拠点)として登録されています。この団体はESDに関するユネスコ世界会議の成果と「国連ESDの10年」で広がったESD実践者の提案をふまえ関係省庁が民間団体との連携事業として開設した官民協働のプラットフォームです。ESD推進ネットワークは、持続可能な社会の実現に向け、ESDに関わるマルチステークホルダーが、地域における取り組みを核としつつ、様々なレベルで分野横断的に協働・連携してESDを推進することを目的としている団体です。

### （1）豊永郷民俗資料館でのプログラムコンセプト

民具は豊永郷の人々が使用していた生活用具です。館のテーマは「人と自然 道具と技術」です。豊永郷民俗資料館での研修は、展示やコンセプトを基にして、豊永郷の人々の生活に触れて頂きます。その中で道具と技術がどのように変化してきたのか、自然とどのように関わってきたのかなど、豊永郷の人々の生活と現在の生活環境を比較しながら文化や自然との関りについて考えて頂くことを展示テーマにしています。

これらを土台に豊永郷地域や山間部の課題を考え、解決策を提示して頂くプログラムもあります。

民具について民俗学者の宮本常一は、「渋沢敬三が問題にしたかったのは、民具そのものではなく、人々の生活そのものであり、しかも目に見えるものを通して古い生活を見ようとしたのではあるが、同時に生活が時間的経過の中で何が変わらず、何が変化していったか、また何故変化し、何故変化しなかったかということだった」と述べています。

民具に関しても単なる古い道具、昔使われていた道具というだけではなく、多様な視点からとらえることが可能です。この多様な視点を持つということは、生活を楽しむ要素の一つだと思われます。

展示されている民具が使用されていた時代と現在との比較を、人と自然の関係、道具と技術の関係を切り口として話題を提供いたします。豊永郷の地域のつながりや残された風習を知り、何かを感じていただければと思っています。



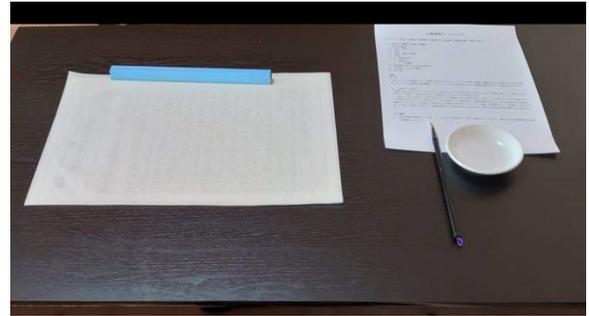
豊永郷民俗資料館 1階

## (2) 定福寺でのプログラムコンセプト

定福寺のある豊永郷は、特殊な地域性、地理的環境の影響で昔からの古い風習が残る地域です。豊永郷の神仏に触れて頂くことで非日常を感じて頂くことができますと思います。

仏教は、お釈迦さまの誕生された環境で「苦」と向き合う中で、自分を見つめ、他との関係性を考えてきたお釈迦さまの教えです。

定福寺では、写経や写仏、瞑想や仏教講座などで「自分と向き合う」作業をきっかけとして、「心」と「言動」に関して仏教的な視点からプログラムを提供いたします。



写経写仏会&仏教講座（高知市旭定福寺観音堂）

## (3) サッカーコーチングより考える組織に関するプログラム

スポーツは武道とは異なり、遊びから生まれたとされています。現代のサッカーでは「ティーチング」と「コーチング」の違いが言われています。その中で重要なのは「選手ファースト」と選手の「思考と気づき」を促す言動が重要な要素だと考えられています。世界中のサッカーではコーチングの重要性やコーチングの仕方、暴言や暴力の撤廃について指導者に指導がなされています。すべてのコーチングは選手ファーストであり、選手育成とチーム強化が目的となっています。

サッカーは、自由なスポーツです。ルール範囲内でどんなプレーを選択することも可能です。指導者の重要な役割として忘れてはいけないことは、「サッカーの楽しさ」を伝えることだとされています。常に試合に勝つことを意識させ、全力を尽くして最後までプレーをするように促すことは、指導者にとって大切な役割ですが、一方で指導者は、アンダー世代では、勝つことだけを望むのではなく、選手たちの夢を叶えるために、育成を中心に考えなければならないとされています。

サッカーコーチングの考え方を学ぶ事は、現代社会において企業の人材育成や強化に関するにも有益だと思われます。サッカーは「認知・分析・判断・行動」のスポーツです。定福寺の『学び・知る・考える・動く』という目的に即した研修プログラムを提供いたします。



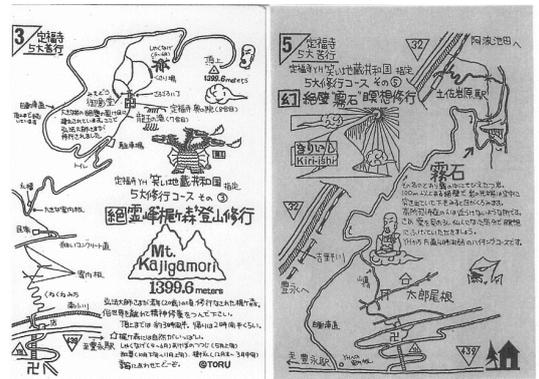
定福寺第三駐車場

#### (4) 五大修行（梶が森登山・トレッキング）

定福寺境内には、1967年から約35年間ユースホステルがありました。ユースホステルでは多くの大学生や宿泊客が訪れ、様々なイベントがおこなわれていました。その代表的なものに『定福寺YH五大修行』というものがあります。名前の通り5つの場所を巡るコースです。3か所以上走破した人は定福寺のユースホステル名である「笑い地蔵共和国」より国民栄誉賞が贈られ、5つすべて走破した人には人間国宝の称号が贈られていました。宿泊者が笑い地蔵共和国のパスポートを持っている方は、入国ビザ出国ビザが押印されるシステムで宿泊割引などの特典がありました。この五大修行のコースは、お互いに協力しながら完走するために、コミュニケーションができる環境でもありました。研修プログラムでは、「梶が森登山コース」があります。ガイドは地元のアウトドアインストラクターの方がサポートいたします。こちらは保険など別途費用が必要となります。自然環境に身を置くことで様々な感動があると思われまます。



梶ヶ森 定福寺奥の院



五大修行 梶ヶ森登山と霧石溪谷トレッキング

#### (5) 土佐豊永万葉植物園と周辺地期散策

土佐豊永万葉植物園は、日本で6番目に開園された万葉植物園です。園内には123本の万葉歌碑があり、その周辺には万葉集に歌われている植物が生息しています。希少植物や山間地期に咲く植物など、平地とは違った植生を楽しむことができます。また万葉集の世界を感じて頂き、かつての日本人の感覚を楽しんで頂ければと思います。また環境の変化によりこれまでになく現象も起こっています。土佐豊永万葉植物園や周辺地域を散策することで、環境に対する変化や課題を見つけ、どのような解決方法があるのかなど研修に取り入れることができます。



(1) はぎ ママハギ マメ科  
 【種別】 なし  
 【製法】 大夫の呼び立てしあはせを藤の胸掛け行かむ泉野在原  
 作者 大伴家持 20巻4320  
 【原文】 藤原良房内 藤原天智加藤 左子之加藤 幸余和真由加早 安佐野渡良良良  
 【仮名】 ますらをよびたてしあはせをふかのむなわけゆかまきのほまほら  
 【変注】 行歌六臣兵部少輔大伴宿禰家持御歌秋野藤原連御歌伴之  
 【校異】 なし  
 【事項】 天智御宝6年年記 作者：大伴家持 御歌 高門 余良 宮廷 動物 植物  
 【歌意味】 野人たちが追い立てるので 藤原は胸で押分けて どこかへ去って行くことだろう  
 咲き匂う萩の野を  
 【解説】  
 「ますらを」 咲ましく立派な男子。  
 以上の歌六首は、兵部少輔(ひょうぶのしょうぶ)大伴宿禰家持がひとり萩の野を思い、かりそめに心境を述べて作ったものだ。「兵部少輔」兵部省の次官。  
 <植物>  
 【開花時期】 8月~10月  
 【植物説明】  
 各地の山地に広くブクブクして生える落葉性低木。夏から秋にかけて紅紫色の花をつける。豆果は平たい楕円形、熟しても裂けない。中に一個の種子を生ずる。  
 ハギは生え芽(ま)という意味で古い種から芽を出すのでこの名がついた。昔はハギを芽子と樹きまた芳官取とも贈物取とも贈いた。萩という字は日本語で、木種が萩に花を咲かせるので直に萩と書いて、ハギと読ませた。漢名は瑞枝子。【新分類改訂日本植物図鑑 2017:554】



土佐豊永万葉植物園の花とパンフレット

## 4. 5. プログラム

これらのプログラムの内容は一例です。用途に合わせて選択し、またご相談にも受け付けています。

### 豊永郷民俗資料館

- (1) 文化について (30分)
- (2) 道具と技術について (40分)
- (3) 豊永郷の歴史と産業 (60分)
- (4) 価値観について (60分)
- (5) 民具使用体験
- (6) 豆腐作り、味噌づくり

### 定福寺

- (1) 仏教講座 (90分)
- (2) 般若心経講座と写経 (60～90分)
- (3) 仏像講座と写仏 (60分)
- (4) 瞑想 (40分)
- (5) 作務(境内掃除) (60分)
- (6) 住職好き勝手講演会 (60分)

### サッカーコーチング

- (1) サッカーについて (30分)
- (2) 育成と強化について (30分)
- (3) コーチングと選手ファースト、コーチの意識について (30分)
- (4) フットサル実技とコーチング (60分～90分)

\* (4) は (1) ～ (3) を受講した者のみ

### 五大修行

- (1) 梶が森登山

定福寺～山頂 (5時間)、龍王の滝～山頂 (3時間) 龍王の滝まで車で30分

- (2) 霧石溪谷トレッキング

通常コース： 定福寺～霧石溪谷(赤根)片道3時間

ロングコース： 定福寺～霧石溪谷～岩原お堂(ガイド)片道4時間

### 土佐豊永万葉植物園と周辺散策

- (1) 土佐豊永万葉植物園ガイド (1時間)
- (2) 周辺地域散策 (2時間)

### 日本文化体験

お茶の世界を体験して頂けます。

### 異業種交流

これらのプログラムを異業種間で行ってみませんか。異業種間の交流は、様々な刺激があります。

日程の調整など要相談となります。

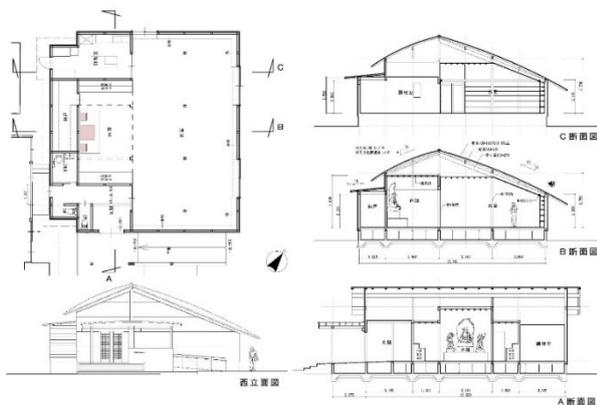
### ミュージアムネットワークとの連携

定福寺宝物館・豊永郷民俗資料館は、高知県の文化保存交流を行う博物館・美術館・植物園・動物園等が加盟するミュージアムネットワークとの連携も可能であり、様々な講師をお招きすることもできます。

## 5. 講堂建設と背景

これまで研修で使用していた旧定福寺ユースホステルが、築 60 年となり老朽化し、雨漏りや水道管の損傷など年々維持費の負担が大きくなっていました。現在の建築法の基準も満たしておりませんでした。当時の若者を対象に、建築された建造物であり、高齢化する地域では使用しづらい建造物となっていました。解体も考えなくてはならない状況の中、神奈川県から不動三尊が定福寺に安置されることとなりました。不動明王は2メートル50センチあり、定福寺の本尊よりも大きく、もし安置するのならばお堂を建立しなければなりません。古文書には、成田山新勝寺御分身として江戸に安置されていた不動明王、ということが記されていました。成田山新勝寺の記録などから、おそらく間違いないだろうと言われていました。不動三尊がお越しになられたことをきっかけとして、長年思い続けてきた山間地域の寺院の存続と祈り、寺院の在り方、地域文化への関与、定福寺を訪れる方々との接点について考えた結果、定福寺講堂を建設することとなりました。講堂には地域の諸堂の仏像を安置する場所を作ります。町内には図書館がないため、壁には図書スペースを設け、研修スペースや地域の食文化を伝える場所も設置する予定です。講堂建設のもう一つの理由が、先にも触れました定福寺の存続を考えなければならない時期になったことでした。

仏教は人がいる都市部周辺や、一定の人が住む場所で成り立つ集団です。大豊町の人口の減少は深刻なものとなっています。江戸時代には約 9,000 人以上、戦後も約 23,000 人の人々が生活をしていました。2023 年 5 月の資料では、人口は 3186 人、高齢化率 63.6%の地域となっています。一方で移住者が多く魅力のある町でもあります。1300 年の年月の中で定福寺に必要とされた境内の十二の諸堂は、明治の廃仏毀釈の際に延焼いたしました。かつての機能を講堂に凝縮し、現代の寺院の役割を果たせる建造物を再建しようとしています。ご協力をお願いいたします。



定福寺講堂 建設予定設計図とパース

## 6. 講堂建設の課題

本来であれば、2022 年に完成している予定でしたが、感染症拡大の影響で寄付活動ができませんでした。この度、大幅にコンパクトな設計にいたしました。物価高騰の影響もあり建設費が 1.8 倍になりました。2 階建てから一階建てに変更するなど、更にコンパクトにする設計に変更をいたしました。それでも大変な状況です。

ご協力いただける方は、ぜひよろしくをお願いいたします。

## 7. 高知大学との取り組み

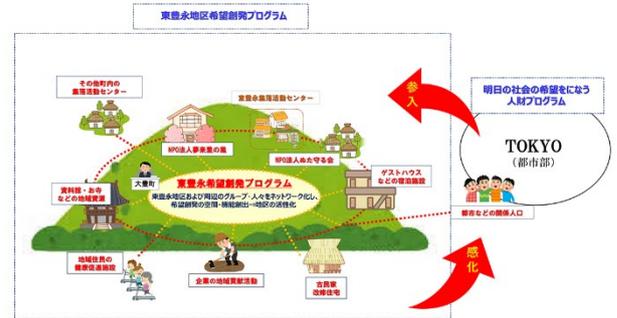
高知大学地域協働学部、高知大学希望創発センター

### OTOYO 事業

OTOYO 事業は、高知県大豊町東豊永地区をフィールドとした、「東豊永希望創発プログラム」と「明日の社会の希望をになう人財プログラム」の2つからなります。

東豊永は全国的にも過疎・高齢化が顕著な地区ですが、そこに残る文化や風景は、私たちにとって今の日本社会を見つめなおし、これからについて思案するヒントになると考えています。

五感を通じて学び、地区や社会の活性に向けて取り組んでゆく。それが OTOYO 事業です。



### 東豊永希望創発プログラム

東豊永地区にあるヒト・モノ・コトを活用し、地区のコミュニティパワーを底上げするプログラムです。

東豊永は、四国山地の真ただ中に位置する、山村からなる地域です。「限界集落」と呼ばれるほど人口減少・少子高齢化が進む地域ですが、そこには厳しい自然環境の下でみられる人と自然、人と人、あるいは人と祖先とのつながりといった、現代の社会が忘れてしまった大切な関係が色濃く残っています。

プログラムでは、この地区で活動する組織（NPO・大学・企業など）や都市部の組織・人々をネットワークで結び、協働を進めることで地区を元気にしようと取り組んでいます。

### 明日の社会の希望をになう人財プログラム

明日の社会の希望をになう人財プログラムとは、東豊永地区のヒト・モノ・コトを教材とした合宿と事前事後のオンライン研修からなる人財育成プログラムです。

プログラムは、今日の産業社会を支える資本主義のあり方を課題としています。資本主義の精神の原点には、利潤の獲得を目指す「産業の論理」と、隣人愛の実践を目指す「人間の論理」の二つの中心がありました。ところがそれらは次第に反目しあい、人間の論理は追いやられ、変質した産業の論理が優先されるようになりました。

私たちは、「人のつながり」や「人の生きがい」といった人間の論理を取り戻すことが、社会をより良くしていくことに繋がると考えています。

東豊永地区は、産業社会では経済発展から取り残されてしまった「限界集落」ですが、ポスト産業社会においては、産業社会以前の“自然のあり方、人間の生き方”を学べる先進集落ともいえるでしょう。

本プログラムでは、豊かな自然のダイナミズムの中で「生きる（働く）意味」について考察し、「人間」中心のポスト産業社会の創造に向けた新たな気づきを得ることを目的としています。

## 8. 問い合わせ・申し込み方法

### (1) お問い合わせ

お問い合わせは、定福寺ホームページのメールか電話にてお願いいたします。

一度、体験されたい方はモニター研修も行います。お問い合わせください。

定福寺ホームページ <http://jofukuji-kochi.jp/>

定福寺メール [tosa.jofukuji@gmail.com](mailto:tosa.jofukuji@gmail.com)

定福寺電話 0887-74-0301

定福寺 FAX 0887-74-0302

\*項目は限られますが、定福寺以外の場所にもお伺いいたします。

### (2) お申込み

最初にメールにて、人数、所要時間、場所、目的をお伝えください。その後、打合せをさせていただきます。どのような講習になるのか、デモ講習会も受け付けています。

#### 連絡先

〒7890167 高知県長岡郡大豊町栗生 1 5 8

真言宗智山派 栗生山定福寺

豊永郷民俗資料館主任学芸員

住職 釣井龍秀

TEL 0887-74-0301